

## 静岡市自立支援協議会地域生活支援部会内 災害時の障がいのある方への支援等に関するプロジェクトチーム活動報告

文責：松山文紀（PT事務局／静岡市障害者協会）

20230531 作成

### ◆プロジェクトチーム会議の開催

令和3～4年度に月1回の会議を開催し以下の検討を行った。（令和4年10月は災害対応のため中止）

◇災害時個別避難計画策定モデル事業の実施（R3年度）※相談支援部会の協力を得て実施

令和3年度51件 令和4年度は福祉総務課のモデル事業に協力

◇個別避難計画の記入様式の検討（R3年度上半期）

◇個別避難計画の説明と作成希望者の募集（R3年度下半期）

◇個別避難計画を作成する方への説明およびアドバイザー派遣（R3-4年度）

【派遣実績】令和3年度：7事業所、令和4年度：2事業所

◇個別避難計画作成を行った事業所へのアンケート（R4年度）

◇個別避難計画作成の優先度にかかる検討（R4年度）

※実際の運用は福祉総務課が判断することになる

### ◆個別避難計画を作成していく上での課題と計画作成を通じて得られた成果（R4-5年度）

#### 【課題として挙げられた主な項目】

- ・避難支援者を計画作成者が見つめるのは相当困難（行政主体での地域への働きかけが必要）
- ・計画作成者の知識や情報により当事者や家族への説明に差が出る→理解が進まない可能性がある
- ・様式に記入する情報量が多く、避難支援者への情報提供をためらう人が散見された
- ・当事者、福祉職、地域が一堂に会する機会が必要だが、その場を誰がどのように調整するのか
- ・地域の側は、訓練やイベント等に参加してくれている当事者に声をかけていくことが重要（相互に）

#### 【成果として挙げられた主な項目】

- ・個別避難計画の様式を検討して作成できたこと（令和4年度もそのまま活用した）
- ・庁内の関係課と検討する機会が増え、共通理解が進んだ
- ・福祉専門職や当事者および家族が、防災について改めて考える機会がもてた（意識の向上）
- ・平常時から地域とのつながりが希薄な方の避難支援者を見つけることは相当な困難がある

### ◆まとめとして

- 1) 個別避難計画作成（特に避難支援者の獲得）については、当事者側も日常の地域活動に参加したり、日ごろから地域とのつながりを自ら持つ努力をしたりするなどの関りが欠かせず、地域や計画作成者、行政等に頼りきりになってしまえば進まないため、日常の延長に計画の実行があることを関係者全員で意識することが重要
- 2) 個別避難計画作成に関わることにより、計画作成者、当事者ともに防災意識の向上が望める計画作成をきっかけとして地域の中の当事者を知ることができることは貴重な機会
- 3) 個別避難計画作成をするしないに関わらず、災害時にどのような避難行動をとる必要があるのかを当事者および家族が平常時に知っておくことは重要（立退き避難の必要性の有無）
- 4) 当初予定していたサービス等利用計画内に新たな項目を設ける手法ではなくなったが、要配慮者が災害時にとるべき行動について表記しておく（A4一枚と程度の）記入用紙があるとよい

以上